

福井県医師会

だより

第695号 令和元年(2019)5月



山毛櫨新緑

福井市 石黒 信彦

表紙写真説明：山毛櫨新緑

福井市 石黒 信彦

白山のすそ野には、広大な山毛櫨（ブナ）林が広がっている。市ノ瀬から白山釈迦岳を經由して室堂に至る登山道（釈迦新道）にも立派な山毛櫨林がある。

春になると林床にはまだ沢山の残雪があるが、山毛櫨は芽吹きを始め、新緑の山毛櫨林はとても美しい。暖かい日差しを浴びて、ゆったりしたひと時を過ごし、残雪の別山を背景にシャッターを切った。

醫 縫 録

大腸がん検診のさらなる飛躍をめざして

福井県がん検診精度管理委員会大腸がん専門部会長

福井県済生会病院 外科 宗本 義則



福井県は以前より医師会を中心にがん検診を積極的におこない県民の健康に寄与してきました。私は2011年4月より福井県がん検診精度管理委員会大腸がん専門部会長を務めさせていただいています。福井県では、2010年から従来の集団検診に加えて、全県統一的に精度管理した5がん（大腸がん、胃がん、肺がん、乳がん、子宮頸がん）の個別検診を開始しました。福井県の調査によれば大腸がん検診で2017年度の集団検診の受診者数は36,512名、要精検率が4.9%、精検受診率が69.2%、がん発見率は0.15、陽性的中度は3.07であります。一方個別検診では受診者数13,863名、要精検率5.4%、精検受診率67.0%、がん発見率は0.38%、陽性的中度が6.94%という値でした。2015年度までは検診受診者数も増加、精検受診率も70%越えてありました。しかし2016年度には集団検診の受診者数がはじめて前年度より下まわり、2017年度は受診者数が前年度よりさらに1,000名ほど減少しました。また順調に増加していた個別検診での受診者数もはじめて前年度より減少しました。さらに集団検診の精検受診率がはじめて70%を割ってしまいました。これには種々の要因があると考えていますが、最も大きいと考えられるのが胃がん検診の大幅な変更につながったのではないかとことです。胃がん検診が2年に1回50歳以上になったことが原因かと思えます。他に無料クーポンの終了、一部の市町での対象者縮小などが要因かと思っています。大腸がん検診精度管理委員会のメンバーはもとより5がん全体の精度管理委員会の先生方と情報を共有してさらなる今後の対策にあたっているところです。

さて適正に大腸がん検診がおこなわれるためには、検診受診率、便潜血検査の感度、精検受診率、精検の感度、治療がすべて良好な状態でないといけません。福井県健康管理協会が集団検診・個別検診を一元的に実施・管理してデータ管理と集計を行っています。また精度管理に関しては、福井県がん検診精度管理委員会大腸がん専門部会が

担っています。さらに各5がんの部会長、県医師会、行政らで構成されている福井県がん検診精度管理委員会が助言・指導を継続しておこなっています。

精度管理の現状としては、具体的には便潜血検査のキットとカットオフ値を全県で統一し、福井県内9市8町にチェックリストを用いて精度管理、指導をおこなっています。指標として1. 受診率、2. 精検受診率、3. 要精検率、4. 大腸がん発見率、5. 大腸がん陽性反応的中度の5項目であります。現在福井県には、大腸がん個別検診医療機関220施設、精密検診医療機関105施設あり（平成31年4月10日時点）、個別検診医療機関に対しては、大腸がん検診の意義、方法、問題点、採便方法、精検勧奨法などについて定期的な講演を行い、精密検診医療機関に対しては、精密検査機関の器具や実施状況などの調査とともに大腸内視鏡挿入法の実技指導による研修を継続しています。また、福井県胃・大腸検診研究会として、大腸がん検診結果（統計的数値）を報告し、外部講師に最新の現状の講演もおこなってもらっています。さらに、各医療機関に対しては上記の研修会への参加を責務として出席を促しています。がん検診（集団・個別）の手引き、大腸がん検診実施ガイドラインという冊子を医師に配布し一般知識の向上をはかっています。受診率を向上させる取り組みとして、「がん検診受診勧奨センター」による電話での受診勧奨や、「がん検診予約システム」、「小規模事業所出前検診事業」、「無料クーポン」配布などをおこない大腸がん検診の底上げを福井県全体でおこなっています。

今後も医師会の先生方のご理解のもと、よりよい大腸がん検診を発展させていこうと思っておりますのでよろしくご協力の程お願い致します。